



夢☆きらめいて

No.
11

加東市教育委員会/加東市人権・同和教育研究協議会 平成23年3月1日



鴨川小学校のオープンスクール

『「知ること」からはじめよう！ワンダフル盲導犬』

目 次

- | | | | |
|----------------------|-----|-------------|-------|
| ● 市同教の活動 | 2・3 | ● 人権啓発作品展 | 8～11 |
| ● 学校教育部会・企業人権 | 4 | ● 「心の窓」 | 12～13 |
| ● 集会所講座事業 | 5 | ● 中学生の人権作文 | 14～17 |
| ● 男女共同参画セミナー | 6 | ● 市民人権講座修了者 | 18 |
| ● 人権と福祉のまちづくりフェスティバル | 7 | | |

この学習会には大きく二つの重要な側面があります。

個人的側面 学習を通して、自分自身の中にある偏見（色眼鏡で見ること）に気づき、それを正して自分自身の正しい人権感覚を高める側面です。

社会的側面 学習を通して、若男女、心身のハンディの有無を問わず、誰もが幸せに暮らせる地域・まちを創造していくという側面です。そこで、市同教では「住民学習会」と「ふれあい活動」の二本柱で各地域へ活動をお願いしています。住民一人ひとりが、自他の人権を尊重する人権感覚豊かな生き方を実践することを基本に「自分たちの地域（まち）は、できるだけ自分たちでよくしていく」という活動を通じて、自治能力を持つた住民がより多く育ち、住民自治がらに進むことが期待されるのです。「住みたい」「住んでよかった」「これまで住み続けたい」と思える「住みよい」加東市を創っていきましょう。

平素は、市同教の活動をご理解・ご協力を賜り厚く感謝申し上げます。特に、各々の地区（自治会）で企画・実施の住民学習会は、旧3町時代から継続実施してきており、他市町からも高い評価をいただいている。

加東市人権同和教育研究協議会
会長 堀井洋一

二つの側面

②他のビデオを視聴して

15地区で16回、延べ51

人が「日常の人権Ⅰ・Ⅱ」

「ひまわりのよう」、「親愛

なるあなたへ」、「おとうと

「おじいちゃんのトマト」、「え

つ!これも人権」、「セピア色

の風景」、「男と女、どちらが得

「綾小路きみまる」、「エキサ

イティングライブ」などを

視聴して学習されました。

③講演会等

講師を招いての講演会が

15地区(579名)で実施

されました。

演題は、「人権を意識し

た地域づくり」「同和問題

のこれから」という人権そ

のものに関わる内容から、

地域のニーズに応じた「防

犯について」「振り込め詐

欺防止」「命」「先祖供養」

など様々な内容です。

郷土の歴史(神社や構築

物)を学ぶことを通して、

文化を次世代につないでい

こうとする目標をもたれた

地域の学習成果も特徴的で

餅つき
【社4区】



紙飛行機づくり
【社4区】



八朔まつり【天神】

伝の助登場【天神】



このほか、パネルを展示して人権についてグループ討議をする地区もありました。

《主な講師》

亀田隆光さん

アラタンブフさん

堀井洋一さん

尾城文雄さん

福西和夫さん

大東太郎さん

加島ゆう子さん

小谷英進さん

小林伶子さん

内藤晴樹さん

三遊亭楽団治さん

鎌田・名村駐在さん

山本英孝さん

池見和身さん

(順不同)

■ふれあい活動

各地区で、住みよいまちづくりをめざして、人権尊重の理念にもとづいた様々

なふれあい活動が実施され

ました。とりわけ、各地区

で普段接することの少ない

三世代の人々が交流し合う

場が数多く設定され、高齢

者は元気と教える喜びを、

子どもは知恵と尊敬の念を

抱くことができ、明るく豊

かな人間関係が築かれたの

ではないでしょうか。

《主な実践活動》

●スポーツ活動
バレーボー、グランドゴルフ、
ボーリングなど。

●伝統行事の継承、祭り
文化及び多文化共生の活動
(料理、天体観測等)

●ふれあいの集い
池ざらえと魚つかみ
昔の遊び

●その他

- ・ふれあいバスツアー
- ・ふれあいサロン
- ・人権パネルの展示
- ・沿道の花壇作り
- ・クリーンキャンペーン

・防火・防災訓練
・サツマイモの栽培と収穫祭
・隣接地区との交流
・ハイキング・登山
・交流盆踊り

・防火・防災訓練
・サツマイモの栽培と収

・ハイキング・登山
・交流盆踊り

■啓発紙の発行

啓発誌「話・輪・和パー

ト3」を発刊し、全戸に配

布して人権意識の高揚を図

った地域もあります。

「人権を考える市民のつどい」

日時 平成23年
2月5日(土)

場所 滝野文化会館
社4区(笠原さん)、曾我(竹内さん)、天神(泉田さん)の三地区より本年度の取組が発表されました。

住民学習の成果発表

きっと、来年度の参考にしていただけることでしょう。
お疲れ様でした。

学校教育部会から

公開授業

学校教育部会では年間3回の人権・同和学習の公開授業を行っています。24名の部員が授業を参観し、授業後の研究協議を通して人権課題の解決に迫る授業改造に努めています。

秋津保育園公開保育



10月29日



1月15日

● 第1学年
● テーマ 「異年齢保育を通して思いやりの心を育む」
● ねらい 「異年齢の友だちと関わることを通して思いやりの気持ちをもつ」
● 材料 東条西小学校公開授業



● 資料 「決めつけはやめよう」「となりのたぬき」
● 主題 指導者 打田晃教諭

● 第2学年
● テーマ 「怒りの感情をどうする」
● ねらい 「怒った時に相手に上手く対処することを学ぶ」



11月9日

● 指導者 泥谷智明教諭
● 材題 東条中学校公開授業

(ほほえみ)

● ねらい 「きめつけや思い込みで人を判断することの誤りに気づき、それを正しいこうとする態度を育てる。」

加東市企業人権 教育協議会

リバティおおさか訪問

■ 管外研修 〈11月16日〉

私たち企人協は、加東市同教、人権擁護委員の方々と大阪市にある「大阪人権博物館」「生野コリアンタウン」へ合同視察研修にかけました。

リバティおおさかでは、

ボランティアガイドより丁寧な案内や解説を受け、人権への関心を増すとともに人々の生きざまや生活環境に思いをはせることができました。

● 当日は、「ひめゆり平和への祈り」（沖縄戦から65年）特別展が開催されており、当時の様子を表した資料から戦争の悲惨さが伝わってきました。一番大事な人間の命を奪ってしまう戦争を二度と繰り返してはならず、命の大切さをあらためて考えるいい研修になりました。



● 社員研修会 〈2月18日〉
● タイトル 「知ることと知らないこと」

● 講師 谷五郎さん
● 内容 「私の秘密」
● ねらい さすがラジオパーソナリティ、話術のプロは表現力がすばらしく、軽快なおしゃべりでとても楽しく聴きやすい講演でした。
また、自分の実体験に基

● コリアンタウンでは、在日朝鮮人の方が経営されているお店に入り、店の商品について説明を受けながら楽しく会話することができます。日本でたくましく生きておられる姿を見て元気をもらつたような気分になりました。

づいての話だったので、分かりやすくてとても説得力がありました。

参加者の感想

● いろんな人権問題には、家族や身近な人と向き合いながら信頼関係を築き、地域社会に繋げていきたい。

● また、「命は鍛えて輝く」ように生きていく」すばらしい言葉です。

● 人と触れ合うことの大切さ、向き合うことの大切さ。もっと他の人の声に耳を傾けること、もっと自分のことを他の人に知つてもらうこと、心を通わせることを大切にして今後的生活に生かしていきたい。

● 心のこもった対話の大切さ、腹の割つた向き合いで大きな絆ができることがあります。

集会所事業の活動

■ 逢田集会所川柳講座

(川柳やしろ)
（北野哲男氏）

講座生 20人
講師 北野哲男氏
(三田市在住)

年間12～3回の句会を講師の北野哲男先生の指導をいただき、課題、席題の川柳を観賞し、その後は、次の講座の課題を決めていくといった内容で楽しく活動をしています。

本年度の活動から

5月の句会の課題は「鮎」「ライバル」、そして席題は「夢」でした。
「それぞれに違う夢もちまだ夫婦」「子にかけた夢のすべてを孫にかけ」「よい夢を見させてくれた孫5人」やつぱり歳を感じさせる句ですね。

5月 16 日の「春の

フェスティバル in やしろ」に作品を展



示しました。

6月19日は4地区合同句会があり、本年度は川柳やしろが世話当番でした。加

東ケーブルテレビの集録やアトラクションに手品を企画したりと大変でしたが、

無事合同句会を終えることができました。

10月27日の講座は「即吟を学ぶ」というテーマで北野先生から席題（その場でつくる）の指導を受けました。今回は「寒風」でした。「熱爛を連れて来ました寒い風」「寒い風ひとりを降ろす無人駅」「寒風を突いて都路行くタスキ」その場で句をつくるのはなかなか大変ですが見事な句ができました。

11月24日は、加古川市の鶴林寺拝観と姫路市の灘菊酒造での句会と、紅葉の美しい車窓を楽しみながら恒例の移動研修に出かけました。

灘菊では秀吉の故事にちなんだ大返しめし」を食べその後「句会」と、楽しい1日でした。「なぞめいたた

僧の説話にききほれる」「天國も地獄も見えた来迎図」「吟行に昔なつかし麦とろろ」

る」



灘菊での句会

ビデオ紹介

「フレームパン」「つながるいのちを感じて」(ビデオ 35分)

「ボクとガク」「あの夏のものがたり」



※このビデオは人権教育課で借りていただくことができます。

「人権のヒント 地域編」「職場編」

「思い込み」「がら」「思いやり」(ビデオ 各22分)

人によって生かされ、つながっていく「いのち」をテーマに、もう一度、「いのち」について自分の問題として考えていただけるような人権啓発ビデオです。

「私の中の差別意識」

「部落差別問題から考える」(ビデオ 24分)

部落差別問題を通して、人々が集まり、交流のなかから、「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解していく。



さまざまな思いをいたいたい。

人々が集まり、交流のなかから、「人権のヒント」を考え、それぞれの違いを思いやる心の大切さを理解していく。



男女共同参画セミナー

県立男女共同参画センターと共催して、「男女共同参画社会」についての基本的な知識を習得し、身近な問題として捉える機会として3回の講座を共催しました。

第2回目（11月24日） 「男女ともにいきいきと暮 らすまちづくり」

英語が聞けていいの
作法を学ぼう

第1回目（11月10日）

『たいせつにする生き方』 ～誰もが個性を

小野市ヒューマンライフ
グループ課長 中村和子さん

A medium shot of a woman with dark hair, wearing a black blazer over a red top, standing at a podium and speaking into a microphone. She is gesturing with her hands as she speaks.

・自立した生き方が男女共同参画につながることを分りやすくお話しいただき今後の参考になりました。

・よくある男女共同参画の
お話をとは違った視点で参加
型の講座でした。
・自分の周りの人に声をかけ、
いい地域づくりを進めてい
かなければ…と思いました。

フリーランスプランナー
川島憲志さん
参加型の
実践(ゲーム)
を行なが
ら周りの人
との関係づ
くりを学び
ました。

ての紹介、報告を行つてい
ただきました。

・違いを認めること、相手ばかりでなく自分も変わろううとすることが必要だと思いました。

『誰もがいきいきと暮らす
地域をめざして』
～男女共同参画
社会づくりの推進～

県立男女共同参画センター
企画啓発課長 藤木政高さん
（参加者の意見）

- ・男女参画共同社会づくり
の流れや詳しい取り組み状
況がよくわかりました。

平成22年版 北海道地域医療共同参画白書
誰もがいのちと暮らす地域をめざして

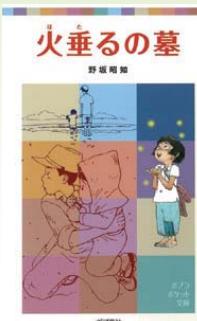
新規購入 図書の紹介

卷之三

③ 「土地差別」 —部落問題を考える—

① 『火垂るの墓』

昭和二十年、戦争のなか親も失い、一人きりになってしまった兄妹。十四歳の清太と四歳の節子がつたなくも懸命に生きようとしてしまった。しかし、この問題に対する取り組みが欠落しているという、「もうひとつの現実」がわかりやすく報告されています。



④『カムイ伝講義』

田中 優子（小学館）

(2) 「阿波のでこまわし」
辻本一英(解放出版社)

田中 優子（小学館）

しまった正月の門付芸。福を届ける神の使いとして敬われながらも日常では賤相に苦しんできました。

まの日本はカムイの時代と
ちつとも変わっていない」
新たな格差・差別構造を
前に立ちつくす日本人へ――





羽成さんは祖父母、父母、姑、身内5人を30年にわたり介護されてきました。その体験をもとに、介護とは、介護する人される人、それぞれの人生のぶつかり合いであり、究極の人間関係であること、人生の数だけ介護法があることを腹話術人形（かつて介護したキクさん）とともにお話ししていただきました。

・人の死や今後、自分の身の回りで増えてくる親、身内の介護について大変参考になりました。

『参加者の声』
・自分の人生に楽しみを見つけながら介護を楽しんで生きたいと思いました。今日お会い出来た幸せに感謝します。

『健やかにさよなら』
いつかは、この世を笑顔で卒業するための明るい生き方レッスン。
・介護体験にもとづいた話には説得力がありよかったです。
・介護を前向きに考えられるようになつた。一日一日を大切に生きることが出来るように思います。

『羽成 幸子さん著書2冊を滝野図書館に寄贈いたしました。』



『介護に教科書はいらない』
あなた流介護のすすめ。



※この本は図書館で借りていた
だくことができます。

相談窓口

こまったときには相談してください。

女性のなやみ相談	兵庫県立女性家庭センター (配偶者暴力相談支援センター) 9:00~21:00 (土日・祝日も可)	☎ 078-732-7700
	兵庫県立男女共同参画センター 9:30~16:30 月~土曜 (祝日・年末年始を除く)	☎ 078-360-8551
	女性の人権ホットライン	☎ 0570-070-810
男性のための相談	兵庫県立男女共同参画センター 17:00~20:00 毎月第3火曜 (祝日・年末年始を除く)	☎ 078-360-8551
人権に関する相談	常設相談所 (神戸地方法務局社しろ支局内) 8:30~17:15 土日、祝日、年末年始を除く	☎ 0795-42-0201
	加東市教育委員会人権教育課 8:30~17:15 土日、祝日、年末年始を除く	☎ 0795-48-3598

人権啓発作品展

総合文化祭において園児による人権啓発作品を展示しました。
 また、ショッピングパークBioで人権週間に、作品展を行いました。
 子どもたちの心に育つ温かい心に触れる事が出来ました。



えがおのかけはし

大好きな「にじのむこうに」の歌をテーマにみんなが笑顔でいられるようにとねがいをこめて作りました。
 社保育園（4歳児）



みんな なかよし 伝の助!!

運動会で元気いっぱい伝の助のダンスを踊ったよ。
 伝の助の笑顔でみんなの心もポカポカだね。
 社保育園（5歳児）



わたしたちの すてきなまち

こんな町だったらいいのにな!
 みんなで仲良く暮らしてみたいな!!
 椿山保育園（5歳児）



こころの中は

子どもが感じるまま絵手紙にしました。

泉保育園（5歳児）



おひさまとともに！

おひさまだいすき！ひかりのシャワーで元気
いっぱい！おひさまと一緒にあそぼうよ！

正覚坊保育園（5歳児）



ながよし うんどうかい！

おはなもむしも ぼくもわたしもみんなみんな
おともだち ちからをあわせて がんばるぞ！

正覚坊保育園（4歳児）



おひさまきらきら

太陽の光は、なくてはならない大切ななもの、
お友だちもなくてはならない大切なものです。

東古瀬保育園（5歳児）



地球はみんなの大合唱

みんなで手をつなげば、ほら笑顔。

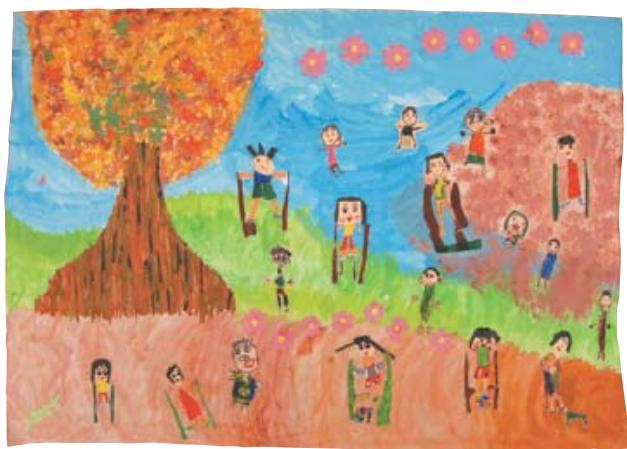
東古瀬保育園（4歳児）



せかいに はばたこう!

いろいろなことを頑張って大きくなったら
世界中の人に仲良くなりたいです。

三草保育園（5歳児）



たのしい ながま

「ヤッター! のれた。」「すごいな。」
みんなで励まし合って竹馬、コップリを楽しんでいます。
米田保育園（4・5歳児）



みんな ともだち

…この広い地球で出会えた奇跡を大切にしていこう…
天理滝野愛児園（5歳児）



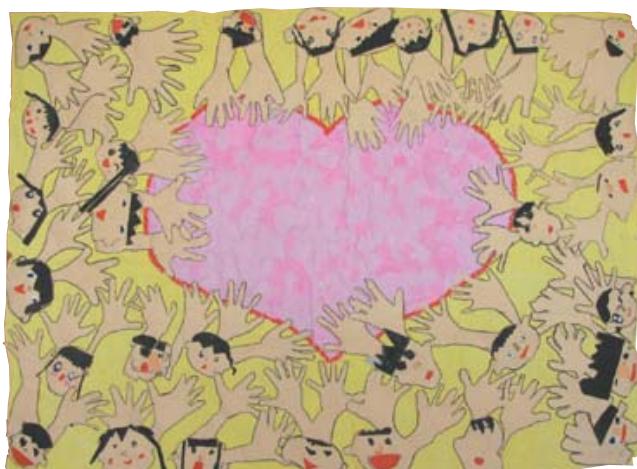
かもがわほいくえん

子どもたちは、山、川で遊ぶのが大好きです。
運動会も小学生と一緒に頑張りました。
鴨川保育園（2・3・5歳児）



心をつなぐ応援団

みんなの気持ちがつながって応援すれば
なんでもできる。さあ心を 1 つに「どんとこい!」
高岡育児園（4・5歳児）



ハートキヤツチさくら組

一人ひとりの気持ちを大切に集めて作った
大きなハート 心ひとつに たのしいなかま
加茂保育所（5歳児）



みんな ながま

一人ひとりの笑顔が集まって、みんなの気持ちが
ひとつになった瞬間 !!

河高保育園（2・3・4・5歳児）



みんなの おむすび

おむすびがいっぱいできたよ。みんなで食べると
おいしいね。君にも 1 つ、はいどうぞ。

東条保育園（4歳児）



One for all , All for one

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」を
合言葉に、力を合わせて綱引きを頑張りました。

秋津保育園（5歳児）



ながよく あそぼう !

だいすきな ほいくえん！ だいすきな ともだち！
けんかをしても仲なおり 笑い声がひびくよ

若草保育園（4・5歳児）



みんなと一緒に 楽しいね

みんなで玉入れ。たくさん入るかな?
紅も白も頑張れ!みんなで遊ぶと楽しいね。

緑ヶ丘保育園（5歳児）



ショッピングパークBioにて
人権啓発展
(12月2日～14日)



人権標語入り風船の配布
社中央体育館
(10月30日)

老いを素敵に

番組制作うらおもて



● 書壇の重鎮、榎倉香邨さんには番組出演と題字もお願いしました。

「題字を書いて欲しいのですが・・・」と切り出すと「いいですよ。さて、うまく書けますかな」あっさりと榎倉さん。

かな書の第一人者を前にした極度の緊張感がいつきに解き放たれました。

ライフワークになりまたといわれる若山牧水。

「牧水を語りだすと止まらないんです」照れくさそ

「今となつてはいくら感謝してもしきれません」と、手を合わされたときの切ないような榎倉さんの表情が何より心に残ります。

● 12月12日、東条道の駅では10周年を迎えた恒例のみのりの感謝祭が行われていました。遠方からのファ

うなその笑顔は思春期の少年のようでもありました。

「かなは、一文字では作

品として成り立たない。他の字とのかかわりのようすで、その字が生きてくる」

その指導は具体的で懇切丁寧であります。

「本人が気付くことを一番大切にされているということでしょう」と門下生。榎倉さんを書への道へ後押しされたのは今は亡き奥様です。

「今となつてはいくら感謝してもしきれません」と、手を合わされたときの切ないような榎倉さんの表情が何より心に残ります。

● 同じく東条道の駅で人気なのが、山田錦の麺を使つた塩分控えめの手作り味噌。作っているのは三尾の口グループ。



ンも多いという有機栽培コスモス会のみなさんの野菜。野菜のおいしい食べ方を尋ねられ、ていねいに答えておられる会員の表情は安心・安全で新鮮な野菜を提供しているという自信にあります。

「おいしかったよ」という言葉に励まされ、がんばっている姿を見せてることで子や孫に伝えたいものがある。そんな思いはみんな同じはずです」と会長の鷹尾義博さん。

「インターネットを使えば爆発的に売れますよ」と水を向けると「身の丈にあつたやりかたを続けます」採算も大事だが、もっと大事なものがある、そんな気概を感じます。

● 平木地区の小地域福祉活動は、毎月第1月曜日、公民館へ高齢者のみなさんが、集まってこられます。

● 平木地区の小地域福祉活動は、毎月第1月曜日、公民館へ高齢者のみなさん

事ではないと思わせられることがあります。加東市では認知症になつ



1月10日は新春バージョン。お琴や尺八の演奏もあり、食事もちらし寿司と、いつもより豪華です。

「野菜や米も獲れる土地柄だし、赤飯するといえばいつもより豪華です。

料理の仕方の話で盛り上がり

るので、それが一番楽しくて大切なことなんだなと思います」

●社市街地地区では、大きな災害の発生時、避難に当たって地域の人々が声を掛け合い、取り残される人がないよう住民の情報を網羅した地図を作成。

「幸いにもこのマップを生きかすような事は起きてないですが、マップ作りに多くの人が関わり、それぞれの頭の中に、どこにどのような人がおられるということをイメージできたことが、一番よかったです」といわれる



● 1日10人の通所者を6人のスタッフでお世話をされている通所介護事業所までいせんーあびき。「自分が高齢者になつたとき、お世話になりたい施設を作りたい」



A group of women are gathered around a table in a room. One woman in a green sweater is gesturing with her hands while speaking. There is a small doll on the table.



その事実に対する驚きもさることながら、私の考えていた「高齢者」の中に受刑者や刑務所を出した方が含まれていなかつたことに気付かされました。

「福祉の視点から犯罪の背景やその人の生き立ちなどを分析して、その人についた支援をすることが重要」と話されていました。これ

「共同参画」KCVにはリクエストチャンネルという便利なチャンネルがあるので、過去に制作した番組も含めて、今回の「老いを素敵に」を見逃した方も、ご覧いただけます。(リクエスト方法は簡単です。くわしくは加東ケーブルビジョンにお尋ねください)

という信念が貫かれているのです。

中で衝撃的だったのは、新規受刑者数にしめる高齢者の割合が激増しているといふことが、全国的にセンターラーが設立されている背景にあるということでした。

二作目になりました

まで顧みられることの少ない
かつた人権課題に司法と福祉
の連携をテコに光をあて
る試みは今始まつたところ
ですが、あらゆる人権問題
への対応の指針となるので
はないでしょうか。



♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪

『地域に 見守られて』

社中学校
3年 河村 佳奈

私が住んでいる加東市の下久米という所は、約135軒の集落です。その中に老人会、女性の会、消防団、子ども会といった組織があります。市の行事や小学校の行事、または集落独自の行事には、それぞれの組織が役割分担をして一つの行事を作りあげていきます。お互い、性別が違ったり、異年齢だったりで一見接点がなさそうな組織が、全体の行事となるとその結束力たるものや、目を見張るものがあります。それは、綿密な打合せや反省会のもとに、各組織の申し送りや改編が加えられてきた賜物といえると思います。

私は、物心ついた頃から一連の行事に参加していましたので違和感なく過ごしてきましたが、母は嫁いできた当初、かなり戸惑ったそうです。準備・片付けや地域行事の当日は早朝より夕方まで1日つぶれることも多く、ましてや目上の人が多く、同年代の人が少なかったので少し心細かったようです。それでも、何度も参加するうち、地域の皆さんに顔を覚えてもらうことができ、顔見知りもでき、徐々に慣れてきてやりがいさえ感じるようになったと聞きました。

やがて私が生まれて、私がアトピーと耳にした近所のおばさんは、ヘチマを使って肌に優しい化粧水を作ってくださいました。あるおじさんは、木切れや端材で、竹とんぼなどのおもちゃを作ってくれました。母は母で、着物の着付けをお願いしたり、どうしても子どもを置いて出かけないといけない時には、気兼ねなく預けられて、信頼できる人に巡り会ったようです。

私が中3になった今でも、登下校中の際、声をかけてくださったり、バーベキューに誘ってくださったりと家族のように接してくださる人が大勢います。何と身内の結婚式にも招待されたこともあります。また、自分の畠で育てた旬の野菜を収穫する度におすそ分けしてくださる方もいます。

このようなことが当たり前のように育った私ですが、都会の人には考えられないでしょう。人の転入転出も多く、隣りに誰が住んでいるのか分からないとさえ聞いたことがあります。

私の様に、いや、私の住んでいる町の様に、幼い頃から親や兄弟と、その土地の行事などに参加する機会を増せば、子どもたちによる犯罪や、老人の孤独死などの全国で問題になっているようなこともなくなり、子どもたちが横道にそれることも少なくなるのではないかでしょうか。

周りに頼れる人がいるということは、それだけでとても安心です。私は平凡に暮らしていますが、いつも大きなものに抱かれているという安心感があります。

小学6年生の時、米田地区に住んでいる一人暮らしのお年寄りに、手作りのクッキーを温かい言葉でつづった手紙と共にプレゼントするという活動を経験しました。私は、一人で過ごされているのはやっぱりどこかさみしいような感じがしました。でも私達が訪問すると、笑顔で出迎えてくださいり、プレゼントも大変喜んでくださいました。お年寄りの方だけでなく、地域全体の皆さんにたとえ近所からでもこんな活動をまた始められるといいと思います。

本当にこんな恵まれた地域で成長していく私は幸せです。この感謝の気持ちをみんなにおすそ分けできるよう、声かけやボランティアなどに変えて、これからも生活していきたいと思います。

また、4月から高校生になって勉強や部活が忙しくなっても、今まで以上に落ち着いて物事を見つめ、周りの人達とより積極的にコミュニケーションをとって地域への働きかけをしていきます。





『私が怒りを 感じたこと』

滝野中学校
2年 吉田 安里紗

先日テレビを見ていたら、父親が息子にオイルをかけて火をつけ、大やけどを負わせたという事件が報道されました。私はそれを見て、ころえきれない怒りを覚えました。

相手はかけがえのない我が子です。その我が子に少し苛立っただけで、なぜこんな残酷な事がでるべきなのでしょうか？

信じられない気持ちと恐怖を感じました。

2009年度に、全国の児童相談所が子供の問題で対応した件数は実に44210件と過去最高でした。また最近、小さな子供の命が親の手によって失われるという悲惨な虐待が多発していると聞きます。

私はとてもかわいそうで仕方がありません。
そこで私は虐待とはどんなことが調べてみました。
虐待とは四つの種類があります。

一つ目は、身体的虐待です。主にたたく、ける、火を押し付けるなどの行為です。

二つ目は、性的虐待です。性的暴行、性関係の強要などのことを言います。

三つ目は、ネグレストつまり養育の拒否や放置です。家に閉じこめる、食べ物やミルクを与えないというものです。

四つ目は、心理的虐待です。子供の存在を無視する、おびえさせるなどの行為のことと言います。

この中の種類で最も多く見られるのが身体的虐待です。「しつけ」と称して行き過ぎの暴力を公然と行っている親が多く存在しています。

虐待に関わっているのは主に母親だそうです。子供に接する時間が多いためだと思います。昔は

「子供は神様からの授かり物だ。」と言われていました。私の母もなかなか子供ができなかったので、今でも「子供は神様からの授かり物だ。安里紗はお母さんの宝物だ。」と言ってくれます。私はそれを聞いて本当にお母さんの子供に生まれてきて良かったと母の愛情に心から感謝しています。

現在は結婚しても「もう少し遊びたいので子供は数年つくりません。」といった言葉をよく耳にします。まるで、子供は自分の作った作品のようにしか聞こえません。私はそんな言葉から最近の

若い夫婦の中に、育児とは程遠く、子供を物のように扱っているように思えてなりません。

自分が子供を作ったから自分のモノという私物意識があるから、自分の思い通りに行かないとすぐにイラライラするのだと思います。だから、夜泣きをしたら叩いたり、タバコの火を押し付けたり平気でできるのではないか？子供の夜泣きは当たり前のことで、昔ならご近所のおばさん達が「タベは大変だったね。」と言ってくれるような、ご近所づきあいというものがあったと聞きます。ところが今はどうでしょう？同じアパートに住んでいても、誰にも子育ての相談ができない。ましてや隣に住んでいる人が誰だか知らないというのが現実とも聞きます。

お互い声かけやあいさつの、近所同士のコミュニケーションを見直していくことを提案したいと思います。そうすることによって、子育てで困っても、近所の人達に助けてもらえることができるのではないか。まず一人で抱えこまないことが大切だと思います。またそのほかでも電話相談や地域の福祉施設に気軽に相談できるようにして、お母さん達の悩みが解決しやすくなればなれども思っています。

多くの子供達は、両親からたくさんの愛情をもらっています。虐待を受けている子供達は、ほんの一握りかもしませんが、一人でもそういう子供がいることは大変不幸なことだと思います。私が母親になったら、私の母のように子供に愛情をたくさん注ぎたいです。なぜなら大切な我が子が元気でくすくと素直な良い子に育って欲しいからです。

そんな母親ばかりになり、いたましい虐待がない社会になることを願っています。





『未来の世界が 平和であり 続けるために』

東条中学校
3年 松本 清香

昭和20年8月6日午前8時15分、広島の上空に「ふたつの太陽」が存在したと言われた原子弹投下。おそろしいほどの熱線と爆風で一気に広島のまちが地獄へと変わり、広島市の約14万人もの人々の命を奪いました。あれから66年経った今。私達の世代は「平和」と言いきれるのでしょうか。現在、日本では日本国憲法の三大原則の中に「平和主義」というものがあり、その憲法の存在によって私達は平和で明るく楽しい毎日を送り続けることができます。しかし、世界に目を向けてみると、こんな日本とは正反対で、常に争い事がある国や、同じ国同士で争って紛争が始まりしている地域もたくさんあります。私達の知らないところでいつも罪のない人々が命をおとしているのです。

私はこの事を機会にもっと世界の争い事や紛争について調べてみようと思いました。すると、過去には数えきれないほど世界中で争いや紛争がたくさん行われていました。その中で私は特に「ダルフール紛争」が気になりました。皆さんはこの紛争は、ご存知でしょうか。この紛争はスーダン西部のダルフール地方の紛争でダルフール地方の反政府勢力の反乱を契機に、スーダン政府軍とスーダン政府に支援されたアラブ系の「ジャンジャウイード」と呼ばれる民兵の反撃が、地域の非アラブ系住民の大規模な虐殺や村落の破壊に発展し、起こった紛争です。この紛争はなんと2003年から始まり2011年現在も進行中の紛争なのです。これまでに30万人以上が殺害され、250万人以上の住民が家を失ったといわれています。

私が学校で授業を受けている時も、家に帰ってゆっくりしている時も、このダルフールの人たちは毎日いつでも「死ぬ恐怖と闘いながらつらい生活を送っているのです。私にはこんな生活は想像できません。それに、こんな生活を送っている人が世界にはまだまだたくさんいると考えると、すごく胸が苦しくなります。私の国、日本だけが

平和であったとしても世界ではこの世界ではこの世代はまだまだ「平和」とは言いません。私は世界の人達にもっと命の大切さを学んで欲しいです。どの紛争でもあまりに尊い命を軽く考えてしまっていると思います。ダルフール紛争でも一般人約30万人もの命が犠牲になりました。罪のない人の命を簡単におとしてしまうなんてひどすぎだと思います。

この世には命に匹敵するものなんて1つもないのだから、一番大切にしなければならないはずです。だって人の命は一度失うと、もう二度と返ってこないのでです。

私は戦争をして得るものよりも失うものの方がとても大きいものだと思います。

では、なぜ人間は戦争をしようと考えるのでしょうか。

「国のために死ぬならいい？」

「自由が欲しいから戦う？」

「強さが欲しいから？」

「自分の国さえ幸せだったらそれでいい？」

もっと違う考え方があるのではないでしょうか。

平和な社会をつくろうと思えば人々の力で簡単に作ることができます。こんな私達中学生だって、出来ることはいくらでもあります。ただ、今は、誰もがそれを行おうとしているのです。だから世界のすべての人が幸せでいる事ができないのです。

今の日本はとても平和です。それは、とてもうれしい事だと思います。もちろん皆さんもそう思っていると思います。ですが、私達だけが幸せだったらそれでいいと言うわけではありません。

今私がこうして読んでいる間でも世界中のどこかで誰かが争いによって命をおとしています。それを私達は見て見ぬ振りで終わらすのはいけないです。少しでも多くの命を救うため、少しでも多く、平和への活動に参加するべきなのです。またその意識を高めていくべきです。1人ですれば1時間かかる事でも2人ですれば30分。12人ですれば5分で終わります。だったら平和への活動だって世界の人々が協力すれば世界平和だって夢ではありません。実現することだってできるのです。

これからの未来は私達の手にかかっています。私達の行動によって世界も変わっていきます。だからこそ、今、私達に出来る事は積極的に参加していかなければなりません。1人でも多くの命を救うため、私達の手で世界平和を実現させたいと思います。



『優しい心の 架け橋』

兵教大附属中学校
2年 阿倍野 唯

私が通っていた小学校に、体全身に障がいを持つ男の子がいました。その子は車イスに乗っていて自分1人では何もできない子で、いつも担当の先生がついておられます。

私が、小学校5年生に進級したとき、たまたまその子と同じクラスになりました。1番初めの班は出席番号順で、同じ班でした。

ある日、私たちと同じ班だった子が

「あの子と同じ班とか最悪やー。」
と嘆いていました。私は、意味がよく分かりませんでした。しかし、その言葉を否定することができませんでした。なぜなら、私も障がい者だから面倒くさい、なんか嫌だと思い込んでいたからです。今になると、その思い込みは障がいを持つ人への差別になるということがわかります。私は自分自身“差別”と言う言葉はきらいです。社会の歴史でならった女性、子ども、人種による差別はどれも理由のないもので、とてもこわいものだったからです。しかし、当時、私は障がいをもつ人たちに自分のいやがる“差別”をしていました。そして、そのような日がずっと続いていたある日、その障がいのある子についていた先生が、

「そんなに人をさけて、馬鹿にして楽しいか。」とみんなに怒りました。私は「はっ」としました。そこでやっとしてはいけない行為をしたことに気づいたのです。私はとても後悔しました。でも、今さら…と思いつたそのとき、また先生が、優しい顔で

「今、後悔している人はこれから障がい者への意識をかえてくれ。」

「おお、おお、おお！」
と言いました。その言葉はとても先生の気持ちが
こもった強い言葉でした。私は先生の言うとおり
だと思いました。

その子は自分がなりたくて不自由な体になったのではないのです。

だからと言って障がいを持つ人が不幸なわけではありません。みんな障がいを持つ持たないに関係なしに強く生きています。その先生の言葉には色々な意味や願いが込められていましたと思います。

その時から、私は障がいをもつ人への意識が変わったと思います。

それから、3ヶ月経ったある日、私は祖母と姉との3人でデパートへ買い物へ行きました。祖母と姉は買い物をする前に、

「少しトイレに行ってくるわ。」

と言いトイレに行きました。私がトイレの近くのイスに座って待っていると目の不自由な方がトイレに向かって歩いていました。私はあまり見ない方がいいと思い、他の方へ目をやりました。でも少し気になって見ていると自分でドアを開けることができませんでした。私は、手伝おうと決めて勇気をふりいりぱり

「大丈夫ですか。ドアを開けるのを手伝います。」とできるだけ優しく、はっきりとした声で、一言声をかけました。私は緊張して、なぜか少しつまずかしくなりました。すると、

「手伝ってくれるの？ありがとう、ありがとう。」とその方が何度もお礼を言ってくれました。私はその一言がとてもうれしくてうれしくてたまりませんでした。私は声を掛けられたことをとても誇りに思っています。

今思い返してみると、小学校の先生の言葉が、障がいをもつ方への私の考え方を大きく変え、今の私を作ってくれていると思います。小学校の時、その子に対して抱いていた

「何となく面倒くさい、嫌だ！」

という感情はとても失礼ではかばかしく恥ずかしいことだと思います。しかし、今の私なら障がいをもつ方への意識が変わり、手伝おうという気持ちになり、堂々と話かけられます。あの視覚障がいをもつ方へ話かけて人の役に立ったことはすごくうれしかったです。

私が今、みなさんに伝えたいことは、人に対し
て“差別”をせずに、障がいを持つ方への意識を
かえて、少しの勇気を出して声を掛けてみてほしい
ということです。もし、困っている人がいて、
声を掛けて手伝いをしてあげたら、その行為は決
して恥ずかしいことではありません。」堂々と胸
を張れます。勇気を出すということはその人の一
生の誇りと財産になると思います。そして少しの
出来事にも「ありがとう」という言葉をどんな人
にも伝えて下さい。どんな時でも「ありがとう」
という言葉は、人と人をつなぐ優しい心の架け橋
になるからです。

第4期加東市民人権講座修了者名簿

加東市民人権講座を開催し、3回全ての講座に出席したみなさんです。
様々な人権課題について学習していただきました。学んでいただいたことを地域やご家庭で実践していただきますようお願いいたします。

(敬称略)

【社一区】	西村博之	芹生一教	丸山 昭	【山口】	西山 貢		
【社二区】	藤岡一也	大西千代子		【吉馬】	高瀬 学	高瀬正信	高瀬君江
【社三区】	中川義隆	柿口洋一	菊池康隆	【れいわ】	南埜 猛		
【社四区】	小川幹夫	小林吉春	城野圭司	【上鶴川】	大畠庄平	【下鶴川】	川口輝之
【社五区】	藤原資央	出井陽一		【平木】	永井佳美	光明晴美	
【ひの恵】	城野淑子			【光明寺】	永井大輔		
【鷹台馳】	服部幸弘			【下滝野】	谷口雪美	小林裕子	森岡賢三
【山国】	井上俊樹	藤本敬子	三ツ井信子	【新町】	星 守	竹内 司	藤原 將
【松尾】	菅野美智子	井上 守			田渕吉隆	時本 太	吉田仁志
【出水】	大橋秀行			【北野】	森本勝久	松本充生	本田久美子 広岡洋子
【田中】	黒石剛史	堀内恵介				稻岡怜子	
【鳥居】	上月美香			【穂積】	末広泰久	神戸成企	神戸泰三 神戸滋和
【貝原】	中西 保	藤本喜久子		【曾我】	小林秀晴	竹内真弓	
【野村】	藤本 弘	森本 操	山本隆一	【多井田】	大橋睦生		
【西垂水】	藤本義輝			【河高】	藤井直美	服部久子	浅田尚美 藤井謹一
【窪田】	中西省三			【高岡】	大久保祥男	藤川憲二	中西 朗 堀田英明
【家原】	田村省三	宮崎京子		【桜台】	西川佑希		
【上中】	神戸幸造			【天神】	藤田 清	藤原利一	藤本ひとみ 藤原孝江
【梶原】	藤原修一	岸本いく代		【摘要】	小原亮太	吉田広一郎	
【喜田】	石井雄一	岸本昌之	高倉栄樹	【黒谷】	榎本俊也	榎本さつき	久米清美
【沢部】	眞野 修	国井敏昭		【古家】	出原秀美	【常田】	奥 貞晴 柴崎明美
【沢部周地】	石井 博			【西戸】	石田 博	堀田みどり	
【福吉】	竹内和美	玉井新一		【少分谷】	大西佐智代		
【上田】	吉川 司			【貞守】	水口典子	【黒石】	山口忠政
【大门】	田中 尚	西村 明		【永福台】	斎藤俊治	【横谷】	中上 勉 寛長辰夫
【西古瀬】	岸本清昭	井上あつ子	井上千鶴	【森】	繁本秀樹	田中裕介	
【中古瀬】	海老名ちは	小林千代		【岡本】	藤原陽一	柴崎和彦	柴崎和代
【東古瀬】	内藤祥平	小紫安司	古家弘章	【新定】	田中達也	岸本俊晴	田中まゆみ 平川洋子
【屋度】	服部准一	服部 博		【吉井】	塙田尚子	伊藤英子	藤原由香 岸本正雄
【東実】	山中京子	山口淳子	【畑】 松浦孝司	【小沢】	廣田勝昭	藤原秀政	
【廻渕】	赤坂誠亮	【池ノ内】	藤本千尋	【栄枝】	藤原千恵美	寺本ひろ美	
【上久米】	勝本泰宏	岡部昭博	伊藤文一	【厚利】	山本智章	山本 誠	
【下久米】	山本重幸	河村俊弘		【松沢】	土肥 浩	岩崎哲也	
【久米】	柴崎弘毅	岡崎秀典		【東垂水】	藤原利春	藤原由美子	
【上三草】	西山直樹			【大畠】	土肥登喜男	【蔵谷】	藤原一郎 柴崎洋平
【下三草】	大西良男			【薮】	柿本賢一	柿本かほり	
【木梨】	臼井浩三	臼井武美	臼井純男	【依藤野】	廣田みのり		
【藤田】	杉本伸英	石古隆樹		【嬉野東】	片岡美穂	坂口守男	立岡高昭

高齢者ははじめから高齢者ではない。
生まれてから自分が生きてきた年齢まで、全ての年代の感性や考え方を包み込んだ存在なんだ。
人権啓発番組「老いを素敵に」の取材を通じてそんなことを感じました。

取材に応じていただいた全ての方々から感じられたのは自身の生き方や仕事に対する誇りや住んでいるところに対する愛情です。

人ととの絆を大切にしながら素敵な人生を送られている姿を見て、無言の「喝!」を入れられた気分です。